

平成 23 年 6 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2007～2010  
 課題番号：19510260  
 研究課題名（和文） アメリカ合衆国の世界的覇権確立過程におけるキリスト教伝道の役割  
 研究課題名（英文） The Role of Christian Missions in the Process of the Establishment of the U.S. Global Hegemony.  
 研究代表者  
 小檜山 ルイ（KOHIYAMA RUI）  
 東京女子大学・現代教養学部・教授  
 研究者番号：70186782

研究成果の概要（和文）：アメリカ、韓国にある目的の資料、ジュネーブの WCC が保存するエキュメニカルな立場に立つ世界伝道に関する資料等を収集した。その一部をデジタル化し、研究の便宜を高めた。韓国の大邱、全州、朝鮮伝道に大きな影響を与えた中国山東省等で現地調査を行った。学会発表、研究会を通じ、韓国基督教歴史研究所の中心メンバーとの協力関係を構築した。一連の研究活動を通じ、朝鮮、中国、日本におけるアメリカ人による伝道は、その方法において共通するパターンがあるが、その歴史的展開においては、中国と日本は類似し、朝鮮は異なっていることがわかった。

研究成果の概要（英文）：The primary materials of our concern have been successfully collected from Presbyterian Historical Society, The Institute for Korean Christian History, WCC archives in Geneva, etc. Part of the materials have been digitalized, increasing research convenience. Field works have been conducted in Tegu, Jeonju and Shantung Province in China. Through our activities in several international meetings, a solid cooperative relationship with the key members of the Institute for Korean Christian History has been established. Through the research, the following has been tentatively found out: American missionaries adopted several common methods of propagating Christianity in Korea, China and Japan. However, the historical pattern in accepting missionary endeavor was similar in China and Japan, and was distinctive in Korea.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：アメリカ女性史、キリスト教史、日米関係史

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：(1) キリスト教 (2) 伝道 (3) 帝国主義 (4) 覇権 (5) アメリカ合衆国 (6) アジア (7) 朝鮮 (8) 中国

## 1. 研究開始当初の背景

(1) キリスト教伝道に関しては、従来の研究では一国的な観点からの研究が圧倒的に多かった。宣教師に関する研究は、各伝道地の初期宣教師に集中する傾向があった。また宣教師が中心となり世界各地にミッションスクールが創設されたが、学校史、教育史の分野では、学校創設者に関する研究が主流をなしていた。文化的なエージェントとしての宣教師研究、ジェンダーの観点をとりこんだ研究が注目を集め始めていた。

(2) 帝国主義研究においては、比較帝国主義研究の成果として、アメリカの帝国主義は、支配ではなく覇権に基づく「非公式帝国」を築いてきたと指摘されていた。しかし、その覇権がどのようにして成立し、どのように機能し、どのように展開されたかということに関しての十分な研究蓄積はなかった。

## 2. 研究の目的

(1) 一国的なキリスト教伝道理解を打破するためには伝道地の比較研究が必要である。今回の研究では、中国、日本、朝鮮の間の比較研究の基礎を築くことを目指した。特に朝鮮に重点を置いて研究をすすめ、日本と中国との比較を試みる。

(2) キリスト教伝道とアメリカの覇権構築に関する研究は、中国に関して、アメリカでかなりの研究蓄積がある。日本と朝鮮については、この観点からの研究は限定的である。この点を補い、研究を進展させる。特に、朝鮮ではキリスト教伝道自体が成功しており、アメリカの覇権構築との関係が注目される。日本統治下の朝鮮におけるアメリカ人宣教師研究を進めることで、アメリカ、日本、朝鮮の権力がどのように交錯したか、という疑問に答える。それによって、アメリカの覇権構築の重層性を明らかにするとともに、朝鮮における複線的な近代化過程を明らかにし、植民地的近代性に関する新たな知見を提供する。

(3) 中国、朝鮮、日本ともに未だ限定的であるジェンダーの観点からのプロテスタント・キリスト教伝道研究を進める。それによって、アメリカの世界的覇権構築過程における、女性の役割についての理解を進展させる。

## 3. 研究の方法

(1) 今回の主要な研究対象を朝鮮に置く。その中でも、特に「東洋のエルサレム」、「東洋の奇跡」と称され、顕著なキリスト教伝道の成功を収めた平壤を中心としたキリスト教コミュニティ、ネットワークを研究の中心とする。

(2) 韓国と中国における研究者ネットワークの基盤形成をはかることにより、より広範な知見を得て、研究活動を形成、展開しうる

環境の構築を図る。

### (3) 資料収集

①フィラデルフィアの長老派歴史協会所収の平壤に関する宣教師の資料収集

②ジュネーブのWCC資料室所収の朝鮮、日本に関する超教派キリスト教伝道事業に関する資料の収集

③英文の朝鮮紹介の出版物の渉猟

④取得マイクロフィルムのデジタル化の推進

### (4) 現地調査

①可能であれば平壤での現地調査

②朝鮮伝道に大きな影響を与えた中国山東省における現地調査

③韓国の伝道拠点(ステーション)の現地調査

## 4. 研究成果

### (1) 研究者ネットワークの基盤構築

①2007年度に、韓国の延世大学校で開催された第6回東北アジアキリスト教史学協議会国際大会に出席し、研究報告(小檜山・李)を行い、中国、韓国の研究者との交流、意見交換を行った。

②2008年には、招聘教授として明治学院大学に在籍していた徐正敏教授(延世大学校神学部)と、数回にわたって研究会を開催、意見交換を行った。また東京女子大学において徐正敏教授による韓国のキリスト教に関する講演会を開催した。

研究分担者・李の所属する恵泉女学園大学にて「朝鮮半島とキリスト教—南北キリスト教の現状と課題」というテーマで、尹慶老総長(漢城大学校)、金興洙教授(牧園大学校)、徐正敏教授、森本あんり教授(国際基督教大学)による国際シンポジウムを開催、120名を越える参加者を得た。

さらに、金興洙教授、徐正敏教授、ヘレン・ポールハチュット教授(慶応義塾大学)らとともに3日間にわたり、東アジアのキリスト教伝道に関する研究合宿を行い、研究代表者、分担者、協力者の間の情報交換をすることができた。

③2009年度は中国の武漢師範大学で開催された第7回東北アジアキリスト教史学協議会国際大会に出席、中国、韓国の研究者と意見交換を行うとともに研究報告(小檜山・李)を行った。

研究分担者の李は、韓国教育史学会、教育学会共催の秋季研究大会に招聘を受け、平壤のミッションスクールに関する研究報告を行い、韓国教育史研究者との意見交換と交流を行った。

④2010年度春には韓国より研究協力者の金興洙教授を招き、慶応義塾大学で研究会と講演会を開催し、北朝鮮のキリスト教に関して日本の研究者との意見交換を行った。

## (2) 資料収集

- ①フィラデルフィア長老派歴史協会所収の平壤に関する資料を収集し、その一部をデジタル化し、研究の便宜の向上を図った。
- ②初期朝鮮伝道に関する英文書籍の収集をほぼ終えることができた。
- ③平壤におけるメソジストの伝道関連資料の一部を収集した。
- ④ジュネーブのWCC資料室所収の朝鮮と日本伝道に関する資料を収集した。

## (3) 現地調査

- ①2008年度には釜山、大邱の現地調査を行った。特に大邱において、コンパウンドと称される、教会・学校・病院の三位一体的伝道拠点を確認し、資料収集も行った。また、崇貞大学校のキリスト教歴史博物館を訪れ、平壤における長老派ミッションの教育事業の歴史に関して学び、また資料収集も行った。
- ②2009年度には、朝鮮伝道との関連が深い中国山東省を訪れ、主に長老派の伝道拠点、教育施設数か所を現地研究者の説明を受けながら現地調査を行った。山東省においても教会・学校・病院を中心としたコミュニティ形成を確認した。特に楽道院と山東大学においてはその形式が顕著に史跡として残っていることを確認した。
- ③2010年度は、大田、全州の現地調査を行った。大田においては金興洙教授の案内で、大田のキリスト教関連施設、民衆宗教施設をめぐった。全州においても教会・学校・病院が有機的に関連したコミュニティ形成を確認した。イエス病院博物館、西門教会資料室で、資料収集をした。
- ④当初予定していた平壤での現地調査は、政治情勢の不安定により実現できなかった。

(4) 英語メディアを用いた研究成果の発表5に列挙するように、日本、朝鮮に関する英語による研究発表、書籍の執筆を行い、グローバル化時代にふさわしい発信ができたと考えている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ①Hirano Machiko, Sawako Haga and Rui Kohiyama, "M.E.Read: The Pioneering Educator of Nurses in Meiji Japan," *Jikeikai Medical Journal*, 47-4, 2010, pp.113-119. 査読有。
- ②李省展「徐正敏著『日韓キリスト教関係史』(書評論文)『キリスト教史学』、査読無、64巻、2010年、256-266頁。

- ③小檜山ルイ「新渡戸稲造再考—『帝国主義者』の輪郭」『思想』1018号、査読有、2009年、121-149頁。

[学会発表] (計6件)

- ①李省展「帝国・近代・宣教系学校—帝国日本の植民地主義と崇実」韓国教育史学会・韓国教育学会 2009年度秋季学術大会、2009年11月30日、韓国、光州教育大学校。
- ②Lee Sungjeon, "Christian Missionaries in Korea and the Japanese Colonial Power in the March First Movement Period: Focus on the Principle of Political Non-Intervention and Its Political Connotations," The 7<sup>th</sup> International Conference of North East Asia Council of Studies of History of Christianity, Aug. 24<sup>th</sup>, 2009, Central China Normal University, Wuhan, China.
- ③Rui Kohiyama, "Modernity Nurtured in Mission Fields," The 7<sup>th</sup> International Conference of North East Asia Council of Studies of History of Christianity, Aug. 24<sup>th</sup>, 2009, Central China Normal University, Wuhan, China.
- ④Rui Kohiyama, 'Chair for Internationalizing American History: The Mutual Influence of American and Japanese Women Reformers, 1869-1950,' Organization of American Historians, Washington State Convention and Trade Center, Mar. 28<sup>th</sup>, 2009.
- ⑤ Kohiyama, Rui, "The Location of Mission Schools for Women in Meiji Japan: A Preliminary Exploration," in the 6<sup>th</sup> International Conference of North East Asia Council of Studies of History of Christianity on Aug. 21, 2007 at Yonsei University, Seoul, Korea
- ⑥ Lee, Sung-jeon, "Empire, Modernity and Mission Schools: The case of Sungsil School and College in Pyongyang, Korea," in the 6<sup>th</sup> International Conference of North East Asia Council of Studies of History of Christianity on Aug. 20, 2007 at Yonsei University, Seoul, Korea.

〔図書〕(計9件)

① Rui Kohiyama, “No Nation Can Rise Higher than Its Women: The Women’s Ecumenical Missionary Movement and Tokyo Woman’s Christian College.” In Barbara Reeves-Ellington, Kathryn Kish Sklar, and Connie A. Shemo, eds., *Competing Kingdoms: Women, Mission, Nation, and the American Protestant Empire, 1812-1960*, Duke University Press, 2010, pp.218-239.

② 小檜山ルイ「アメリカにおけるキリスト教とフェミニズム」『ジェンダー史叢書3 思想と文化』明石書店、2010年、150-169頁。

③ 小檜山ルイ (共編著)「女性と帝国」『アメリカ・ジェンダー史研究入門』青木書店、2010年、139-162頁。

④ 小檜山ルイ「女性宣教師とロマンティック・ラヴ・イデオロギー」『ミス・ダイヤモンドとセーラー服』中央公論新社、2010年、241-259頁。

⑤ Lee Sung-jeon, ‘Empire, Moral Superiority and Mission Schools: The establishment of Sungsil School and College in early 20<sup>th</sup> Century Pyeongyang, Korea’, in Jang A. B. Jongeneel, Peter Tze Ming Ng, et.al., eds., *Christian Mission and Education in Modern China, Japan, and Korea*, Peter Lang, 2009, pp.131-140.

⑥ Rui Kohiyama, “Women’s Education at Mission Schools and the Emergence of the Modern Family in Meiji Japan.” In Jang A. B. Jongeneel, Peter Tze Ming Ng, et.al., eds., *Christian Mission and Education in Modern China, Japan, and Korea*, Peter Lang, 2009, pp.99-114.

⑦ 小檜山ルイ、横浜プロテスタント研究会編「メアリ・E・キダー」『横浜開港と宣教師たち』有隣堂、2008年、126-146頁。

⑧ 小檜山ルイ「帝国のリベラリズム」『帝国と学校』昭和堂、2007年、297-335頁。

⑨ 李省展「帝国・近代・ミッションスクール」『帝国と学校』昭和堂出版、2007年、227-263頁。

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小檜山 ルイ (KOHYAMA RUI)  
東京女子大学・現代教養学部・教授  
研究者番号：70186782

### (2) 研究分担者

李 省展 (I SONJON) (2007)  
恵泉女学園大学・人文学部・教授  
研究者番号：10279664

### (3) 連携研究者

李 省展 (I SONJON) (2008-2010)  
恵泉女学園大学・人文学部・教授  
研究者番号：10279664

### (4) 研究協力者

金興洙 (韓国、牧園大学校・神学部・教授)  
徐正敏 (韓国、延世大学校・神学部・教授)  
ヘレン・ボールハチェット (慶応義塾大学・経済学部・教授)